ふじネットワーク

緑あふれる文化のまち 鷹岡

△交通量の多い鷹岡商店街

▶人　　口　　1万3,096人
▶世 帯 数　　3,656世帯
(61年7月1日現在)
▶面　　積　　5.05平方キロメートル

鷹岡地区は、潤井川の東岸、富士南麓の台地上に開けた地区です。富士山の豊富な湧水と昔から大宮街道の中間点にあったこのまちは早くから開けました。

明治時代には、富士製紙第一工場（後の王子製紙、現在の新富士製紙）がこの地区で初めて洋紙の製造を開始し、製紙業勃興の発端となりました。

身延線入山瀬駅の周辺は、商店街とそれを囲むように製紙工場の並ぶ住工混在地域であり、久沢東、西地域は、人口の密集地域となっています。

また、地区の南部は水田、北部は茶栽培の農業地域ですが近年宅地化が進んでいます。

地区の南東から北西にかけては国鉄身延線、国道一三九号線、西富士道路など幹線が横切り、これに沿って旧大宮街道、厚原線など旧来の道路が通る交通量の多い地区です。

また、鷹岡本町地域は、旧鷹岡町の中心街で商店が立ち並んでいます。

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。

あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。11月は丘、12月は大渕地区です。連絡先…市内永田町1－100 市広報広聴課☎51－0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。

おじゃまします

ボランティアグループ ふたば会

代表　芝川正子さん（久沢西）

「ふたば会」は、地域に福祉の芽を育てているボランティアグループです。代表の芝川さんのお宅におじゃまし、おむつづくりなど活動の様子をうかがいました。

昭和四十五年、広報無線で障害児のボランティア募集を耳にしたのが代表の芝川さん。以来、障害児との交流、寝たきり老人のおむつづくりなどを中心に地道な活動を続けてきました。現在は、鷹岡公民館を会場に、第二・第三水曜日の例会のほか、ボランティアセンターから要請されたことを随時行っています。

会員は十三人。全員が女性で三十代から六十代まで幅広いメンバーです。

会合は福祉の問題から自分の身の回りの話しまでバラエティーにとみ、皆さんとてもきさく。ふたば会は、連帯感の強いのが特徴です。

「私はボランティアですなんて肩ひじをはらず、自分のできる事をできる範囲でやってきました。」と芝川さん。

活動の悩みは、運転手がいないこと。福祉施設は遠方が多いので、バスやタクシーを利用しますが、交通費の負担がばかになりません。「私たちの足になってくれるボランティアはいないかしら」とはメンバー全員の声。我と思わん方ご一報を。

△写真右から川村さん、佐野さん、木村さん、佐野さん、芝川さん、樋上さん

ぐまちか

我がまちを語る

石川 軍治さん

入山瀬天王町(75歳)

先見性に富み真摯

今の鷹岡地区は、三つの大きな契機を乗り越えてきたといえます。

一つは鷹岡伝法用水（通称二本樋）の完成（二六年）です。この用水は水稲の作付面積を拡大し、生産力を増大させました。

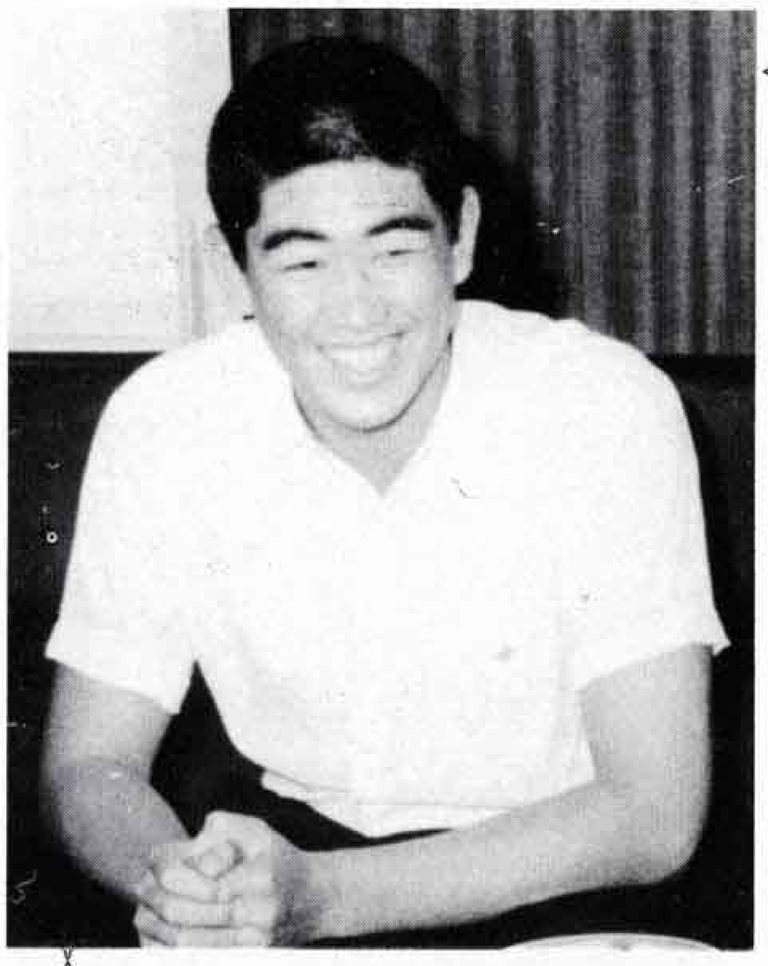
二つ目は、明治二十三年の富士製紙第一工場の進出です。これは鷹岡地区にとって産業革命と呼んでもいいものでした。

富士製紙の近くには、多くの技術者が住み、商店街もできました。これが現在の鷹岡本町通りで、明治時代にはガス燈がついていたといわれます。

三つ目は、大月線の開通です。自動車の普及と相まって、地区の北部を発展させ、ベッドタウン化が進みました。

こういう歴史を踏まえてみれば、鷹岡地区の人は概して真摯な気性で、先見性に富んだ人が多いといえます。

クローズアップ人



国民体育大会夏季大会水泳100メートル自由形少年男子の部で優勝

藍川健一さん

希望ヶ丘　日大三島高校1年生

かつて、早川一枝さんという日本を代表する水泳選手が出た富士市から、久々にあらわれた水泳界のホープ藍川君。身長百八十二センチメートル、体重七十八キログラムと高校一年生とは思えない立派な体格です。

水泳を始めたのは七歳のとき。それまで全く泳げず心配したお母さん（啓子さん）が、市内のスイミングクラブへ入れたのがきっかけでした。

大渕第一小学校六年生のころからメキメキと頭角をあらわし、大渕中学校時代は全国大会で四位に入賞しています。

ことし四月に日大三島高校へ進学してからは、毎日七千メートル泳ぐ練習を積み重ね、今回見事優勝しました。

藍川君は、お父さん（隆さん）いわく「のんびり屋で、プレッシャーは受けない方」という大物。

将来は「日本のトップスイマーになりたい」という希望も、まんざら夢ではなさそうです。

あの人・この人・こんなこと

わらべうたを集めて二十余年

小幡幸敬さん（鷹岡本町三）

「子守うた」や「なわとびうた」などの「わらべうた」は、皆さんも幼いころ歌ったことがあると思いますが、現在はだんだん歌われなくなってきています。

「このままではなくなってしまう」と危機感を抱いた小幡さんは二十余年前より「わらべうた」の採集を始め、百四十編余を集めました。集めた歌は採譜をし、来年には本にする予定です。

◇子守うた

坊やはよい子だ　ねんねしな
ねんねのお守は　どこへ行た
あの山越えて　里へ行た
里のお土産に　何もろた
でんでん太鼓に　笙の笛
ねろてばョー　ねろてばョー
ねろてば　ねないのか
この餓鬼め

◇なわとびうた

熊さん　熊さん　回れ右
熊さん　熊さん　手をついて
熊さん　熊さん　お出なさい

◇なわとびうた

お嬢さん　おはいんなさい
ジャンケン　ポン
負けたら　すぐに　お出なさい

※これらの「わらべうた」は、十月十八・十九日に行われる鷹岡地区の文化祭でご覧になれます。

最年長の交通指導員

横溝栄さん（鷹岡本町二）

富士鷹岡線の鷹岡本町交差点に毎朝立つこと十九年。地域の人からは「早起き鳥」と呼ばれているのが、横溝栄さん（七十六歳）。市内で最年長の交通指導員です。

横溝さんは「私たちは雨の日など、視界の悪いときほど必要とされています。」と年を感じさせない頼もしさ。朝、子供たちにあいさつされると、目もとをほころばす優しいおじいちゃんです。